

京の美を担う作家たち ～街かど古典カフェ～



- ① 4/22(土) 13:00～14:30
全日同じ時間
截金作家
ガラス工芸作家
- ② 5/27(土) 木版画摺師
- ③ 6/24(土) 染色工芸作家
- ④ 7/8 (土) 御所人形師
- ⑤ 7/15(土) 陶芸家・美術家

- 江里 朋子
- 石田 知史
- 平井 恭子
- 羽田 登喜
- 伊東 庄五郎
- 近藤 高弘



聞き手・コーディネーター（京都酢屋・株式会社千本銘木商会専務取締役） **中川 典子**

伝統工芸の分野で活躍される作家の皆さんの、ものづくりや仕事にかける想いをお聞きします。中川典子さんとの対談で、映像をまじえてそれぞれの工芸を知っていただくとともに、伝統を受け継ぎながら新しい事へ挑戦し、次代に繋いでいくことの苦労や喜びなどを語ります。

主催：NHK文化センター京都教室、古典の日推進委員会

【受講料5回（NHK文化センター会員）12,600円（一般）15,400円
（古典の日割引※入会不要）12,600円

このチラシをお持ちの方は「古典の日割引」で承ります。窓口・お電話でお申し込みください。





各回の講師について

江里 朋子(えり ともこ) 截金作家

仏師の江里康慧と重要無形文化財「截金」保持者の江里佐代子の長女として京都で生まれる。京都芸術短期大学(現:京都芸術大学)日本画専攻卒業後、母に截金を習い始める。先人達が大切に伝えてきた截金の技術を受け継ぎながら、新たな截金の世界に挑戦する。2011年 第58回日本伝統工芸展で截金飾笥「皓華」が日本工芸会新人賞受賞。2019年 第54回 西部伝統工芸展で截金飾笥「憧憬」が朝日新聞社大賞。2020年京都府文化賞奨励賞受賞、他、数々の賞を受賞。現在は、夫の郷里の福岡へ移り京都と福岡で制作活動を行う。

石田 知史(いしだ さとし) ガラス工芸作家

1972年、ガラス工芸作家の両親、石田亘(京都府指定無形文化財)、征希の長男として京都に生まれる。1994年、東京ガラス工芸研究所卒業。さまざまな自然の中に、生かされている自分を感じ、感謝しながらものづくりをさせていただいています。静けさの中の一瞬の動き、「しずかなる美」を感じて頂ければ幸いです。2006年に第24回京都府文化賞奨励賞受賞。第53回日本伝統工芸展日本工芸会総裁賞受賞。他、数々の賞を受賞。2020年に、江里朋子さんと「古代技法を継ぐ者たち-ガラス・截金- 石田知史・江里朋子展」を開催。

平井 恭子(ひらい きょうこ) 木版画摺師

大阪生まれ。京都精華大学美術学部版画専攻卒業後、1998年に佐藤木版画工房摺師の佐藤景三氏に師事。伝統的な木版画の摺りの技術を学ぶ。2011年から国際交流基金主催事業でタイ、アメリカ、ロシアなどの大学や美術館で実演、ワークショップ講師を務める。2014年、京もの認定工芸士(京版画)の称号を取得。2015年第9回国際版画会議(中国、中国美術学院)、2017年第3回国際木版画会議(アメリカ、ハワイ大学)にて伝統的な木版画の技術を実演。現在、文化庁選定技術保存団体・浮世絵木版画彫摺技術保存協会京都支部理事、京都精華大学非常勤講師。

羽田 登喜(はた とき) 染色工芸家

1968年、登喜男を祖父に、登の次女として羽田家に生まれる。1992年京都市立芸術大学美術学部工芸科を卒業し、同大学大学院美術研究科工芸専攻染織入学、羽田工房で本格的な手描き友禅の修行を始める。幼い頃から絵を描くことが大好きで工房を遊び場に育った。祖父登喜男が金沢で加賀友禅を学んだ後、京都で京友禅を修行、そのまま京都で手描き京友禅の工房を構えた。京都は一枚のきものを分業で作り上げるが、登喜男は、スケッチをして、図案を考えて、草稿を描き、下絵、糊置き、友禅、伏せ、地染めなど、全ての工程を一人でやる加賀友禅の特徴である一貫作業で制作。努力を重ねた登喜男の思いを受け継いでいる。

伊東 庄五郎(いとう しょうごろう) 御所人形師

1971年、有職御人形司伊東久重家の長男として生まれる。高校生の頃より家業の手伝いを始め、大学卒業後、会社勤務を経て24歳で御所人形師の道に入る。10年後、初めての作品を発表。39歳の時に銀座和光にて初個展。以後、各地で展覧会を開催する。令和元年、伊東家の後嗣(こうし)名である庄五郎を襲名。同志社女子大学非常勤講師

近藤 高弘(こんどう たかひろ) 陶芸家・美術家

1958年、潤の長男として京都市に生れる。祖父は人間国宝の近藤悠三。エディンバラ・カレッジ・オブ・アート修士課程修了、文化庁派遣芸術家在外研修員、京都市芸術新人賞、Inglis Allen Masters 賞受賞。主な展覧会に1995年個展(スコットランド国立博物館)、2005年「-Contemporary Clay- 新世紀の日本の陶芸」(ボストン美術館)、2010年「未来を担う芸術家 DOMANI・明日展」(国立新美術館)、2014年「京焼歴代展-継承と展開-」(京都市美術館)、2015年「古代から現代:日本現代陶芸とその起源」(サンアントニオ美術館)、2019年「Bouddha, la légende dorée」(ギメ美術館)など。主なパブリックコレクションにメトロポリタン美術館、スコットランド国立博物館、ギメ美術館など多数。

◇コーディネーター

中川 典子(なかがわ のりこ) 株式会社酢屋、株式会社千本銘木商会専務取締役

京都市生まれ。大阪芸術大学芸術学部文芸学科卒業。茶道美術出版社勤務後、岐阜、奈良県吉野での銘木修行を経て、現職。2009年「DO YOU KYOTO? ネットワーク」大使(環境大使)。「京都・和菓子会」を主宰するなど幅広く活動。



11月1日は古典の日

古典の日推進委員会

